

「顔なじみ」の関係づくりで生活に“安心感”もプラス！

安達商事が今年4月に導入した、軽車両の小型移動販売車「こまわり号」。

高齢者へのきめ細やかな買い物支援と見守り活動を中学生職場体験学習に訪れた渡辺大陸さん（日野中学校2年、根雨）が密着取材を行いました。



この笑顔が、高齢者を癒す

移動販売車の実力

あいきょうの小型移動販売車「こまわり号」は、小回りが利くというところを生かして大型の車両では入れないような狭い道も通って、高齢者の家の前まで行き、色々な商品を販売しています。商品はジュースやパン、ぶどうなど、たくさんの種類がありました。音楽を流して移動しているの、こまわり号が来ると、すぐにわかるようになっていきます。

あいきょうでは移動販売と同時に、高齢者や地域の見守り活動も行っています。「ひまわり号」という大型の移動販売車もあり、小回りが利かないかわりに積み込める商品の数が多いという利点があります。保冷設備があるので魚や冷凍食品も販売しています。



演歌が合図。高齢者が訪れる



玄関先で「見て、選べる」

地域には欠かせない存在

地域の人からは「わざわざ歩いて店舗まで行く必要がなくなつて便利」という声がたくさんありました。でも、歩いてひまわり号まで来れないという人もいました。その人たちも、こまわり号が来るようになって「生活が変わった」と言っていました。

高齢者の人たちは、「商品がまあまあ揃っているし、欲しいものがなければ注文して持ってきてもらえるからとてもいい」とか「こまわり号は、商品が少ないからひまわり号のほうが良かった」とか「魚が食べられるからうれしい」とかさまでした。

「顔なじみ」の関係づくり

従業員の方に軽自動車で

回っていて良かったことを聞くと「お客さんのすぐ近くに行つて販売できることと、お客さんの顔が見られるし、顔なじみができたこと」と答えられました。従業員の人から見たお客さんの反応は「冷凍食品の人气が高い」でした。保冷設備が、役に立っているようです。

高齢者について気になることは「いつも出て来てくれるお客さんが出てこなかったりするときがあるので、お客さんの体調が気になる」だそうです。

買い物支援の大切さを知りました

「あいきょう」の、こまわり号に密着して取材してみて、まず思ったのは、従業員の人の接客がとても上手だということです。やっぱり、いつもあって会話して顔なじみになってるから、あんなに気軽に接客ができるんだろうなと思いました。僕は、あいきょうとかの店には歩いていけるけど、それが難しい高齢者の人にとっては、ひまわり号やこまわり号が、唯一の自分で買い物する方法なんだろうな、と思いました。



日野中学校2年
渡辺 大陸さん

普段、自分から高齢者の方と話をすることがないので、取材のときは少し苦労しました。写真を撮るとき、初めは使い方よくわからなかったけど、慣れてくると楽しかったです。うまく話ができなかったし、いい写真もあまり撮れなかったけど、いい経験になったと思います。



植え方を教わりながら、一生懸命頑張る

秋に豊作を祈って

保育所交流サツマイモ植え



愛好家らは手入れの仕方など親睦を深める

美しく花開く

町さつきまつり

町内の愛好家らが丹精込めて育てたサツキや盆栽を一堂に展示する第39回日野町さつきまつり（同実行委員会主催）が6月8日から10日まで、根雨の山村開発センターで開かれ、町内外から多くの人出でにぎわいました。

会場には、約50点を展示。白や赤、桃色など色とりどりに咲いた見事なサツキに来場者は「どれも見事に咲いており、美しい」と感心していました。

また、期間中、同実行委員会によるサツキ講習会が毎日開かれ、愛好家らが集まり、丁寧な手入れの仕方を学びました。

6月17日、恒例になっているひのっこ保育所と津地自治会の交流芋植えが、津地地内の畑で行われました。

今年で7年目を迎える交流会。保育所からは年長児と年中児21人が出掛け、用意された300本のサツマイモ苗を津地自治会の皆さんと一緒に植えました。津地自治会の小谷清さんは「津地に保育所があるので、みんな楽しみになっています。芋の種類は金時芋です。おいしく育つように、草取りなど管理を頑張りたい」と笑顔で子どもたちを受け入れます。秋には芋掘りが行われます。



初めての車いす操作に悪戦苦闘

介護の難しさ知る

中学校で介護体験教室



草をかき分け、オオキンケイギクを駆除する

生態系を乱す厄介者

オオキンケイギク一斉駆除

6月10日、中菅の滝山公園で、鳥取県日野総合事務所と日野町が主催し、特定外来生物のオオキンケイギク一斉駆除作業が行われました。

当日は、あいにくの雨の中、県、町、県自然保護ボランティア17人が参加。中菅地区と滝山公園の間を中心に、抜き取る作業を行い、約1時間程度で大きなごみ袋17袋分の駆除ができました。

今回駆除の対象としたオオキンケイギクは、色鮮やかな黄色の多年草で、道路の法面などよく見かけることの多い花です。しかし、生態系などに影響を及ぼす特定外来生物に指定されており、栽培や保管、運搬が原則禁止されています。

6月17日、日野中学校で介護体験教室が開かれ、2年生40人が車いすの動かし方について学びました。

この教室は、総合的な学習の授業で行われ、講師には町内で介護施設を運営する日翔会から8人が訪れました。会場となった体育館では大小さまざまな障害が作られ、生徒全員が、車いすを操作する側の気持ち、操作される側の気持ちを経験。生徒は初めての車いす操作に、「難しい」と悪戦苦闘していました。

講師となった特別養護老人ホーム、あいご（根雨）の介護支援専門員、村上富美恵さんは「介護する側、される側の難しさを分かってくれたのでは」と振り返りました。